

今後の検討方針

これまでの審議内容を踏まえ、共用検討すべき既存の無線システム毎に、個別関係者間で検討を行う。

共用検討を行う既存の無線システム	周波数帯
加入者系無線アクセスシステム	22.0～22.4GHz / 22.6～23.0GHz 25.25～27.0GHz
携帯電話エントランス回線	22.4～22.6GHz / 23.0～23.2GHz
電波天文	23.6～24.0GHz
地球探査衛星	23.6～24.0GHz
空港路面探知レーダ[ASDE]	24.5GHz
固定衛星	27.5～31.0GHz

検討体制

既存の無線システムの関係者及びUWBレーダを推進する関係者の間でアドホック会合を開催する。必要に応じて、UWBレーダ作業班構成員以外からも参加することができる。

(上記以外の無線システムについても、今後必要に応じ共用検討を行う。)

検討事項

- 1 UWBレーダの普及予測・稼働率
 - ・日本国内において想定されるUWBレーダの車載搭載数
 - ・地域別（市街地、準市街地、郊外地）における車両密度
 - ・単位時間あたりのUWBレーダ稼働率（使用率）
- 2 干渉検討の前提条件
 - ・干渉モデル（伝搬モデル）
 - ・既存無線システムの設置場所及びUWBレーダの利用環境の考慮
 - ・干渉低減要素等の精査（拡散損失、UWBレーダ稼働率等を考慮）
- 3 必要な運用条件の検討
 - ・時限的措置の期限の検討（利用台数制限の担保）
 - ・放射方向制限（その測定法も含む）
 - ・利用地域の制限（その実効性も含む）

今後のスケジュール

各無線システムとの共用検討について、骨子が固まった時点で次回作業班において中間報告。